

2022 年 9 月 15 日

SUBARU AWD 車誕生 50 周年を迎えて

SUBARU の AWD (All-Wheel Drive: 全輪駆動) 車が、2022 年 9 月に誕生 50 周年を迎えました。1972 年 9 月、国産初の乗用タイプ全輪駆動車「スバル レオーネ 4WD エステートバン」の発売以来、SUBARU の AWD 車累計生産台数はおよそ 2,100 万台*1 に上ります。

現在、SUBARU の世界販売台数に占める AWD 車の比率は 98%*2 に上り、その全てが水平対向エンジンとの組み合わせによる*3、SUBARU 独自のシンメトリカル AWD です。

シンメトリカル AWD の最大の特徴は、縦置きに配置した水平対向エンジンを核として左右対称にレイアウトされたパワートレインで、水平対向エンジンのもたらす低重心とパワートレインの優れた重量バランスが AWD の安定性・走破性を最大限に引き出し、あらゆる天候・路面で優れた走行性能を発揮します。

SUBARU はこのハードウェアの強みに加え、「人を中心としたクルマづくり」の考え方のもと、クルマと乗員の一体感を高めるつくり込みを続け、高い次元での「安心と楽しさ」を実現してきました。

SUBARU の AWD 技術は電動車においても進化を続けています。日本をはじめ世界各地域で展開する e-BOXER*4 搭載車では、モーター駆動の応答性の高さを活かしたより緻密な AWD 制御により、雪上や氷上といった滑りやすい路面での安心感や、ラフロードなど悪路での走破性が更に高められました。

また、グローバル EV「ソルテラ」で採用された EV 専用 AWD システム「前後独立モーター駆動式 AWD」には、2005 年から続くモーター駆動 AWD 制御の研究で積み重ねられた技術・知見が織り込まれ、SUBARU らしい高い走破性と走りの楽しさを実現しています。

代表取締役社長の中村知美は、「SUBARU の安全思想と走りの楽しさを支える中核技術である AWD システムは、半世紀にわたり絶えず磨かれてきました。電動化の時代においても、モーター駆動と AWD 制御の協調で AWD 性能を更に高め、走りの安定性、動的質感、操る楽しさといった『SUBARU らしさ』を追求していきます」と語りました。

SUBARU は今後も、独自のコア技術の進化を追求するとともに時代変化に応じた新技術との融合を図り、世界中のお客様へ「安心と楽しさ」を提供していきます。

*1: 2022 年 9 月 15 日現在。シンメトリカル AWD 以外の AWD を含む。

*2: 他社からの OEM 供給車を除く。

*3: ガソリン車、HEV、PHEV

*4: e-BOXER: 水平対向エンジンと電動技術を組み合わせた SUBARU 独自のパワーユニット。シンメトリカル AWD のレイアウトをベースに、コンパクトで高性能なモーターとリチウムイオンバッテリーを左右対称・一直線上に配置。(中国仕様ユニット名称は「INTELLIGENT BOXER」)

